

「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～「笑い栄ゆ」・「笑う門には福来る」・「笑う顔に矢立たず」・

「怒れる拳笑顔に当たらず」・・・～

人間にとって「笑い」や「笑顔」がいかに大切であるか、ということ表現した「ことわざ」や「格言」ってたくさんありますね。

さて、次の仏像は滋賀県向源寺の十一面観音菩薩立像です。日本史で仏像の名前を覚えるのが苦手な人も多いかもしれませんが、今回はこの日本の仏像についてです。

まず、この華麗なフェイスをご覧ください。

11の顔を持つ十一面観音菩薩立像です。

なぜ11もの顔で常に観察し、何かあればすぐに駆けつけてくれる。

そして、11面の表情で励ましてくれる。

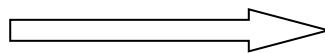
時には、穏やかな表情で癒し（正面の三面を慈悲面といいます）、ときには優しい表情で励まし（右側の三面を狗牙上出免（くげじょうしゅつめん）といいます。優しい顔に歯が見えていて、「そんなこともあるさ。元気出しなよ。」って感じの表情です。

そして、道を外して、間違っただけで行こうとしている時は、ちゃんと怒ってくれます。（左側の三面を瞋怒面（しんぬめん））といいます。

さて、では十一面観音菩薩立像の11番目の顔は……………実は……………真後ろにあります。

これはどんな表情になっているのでしょうか。これは意外に知られていません。どんな顔をしていると思いますか？……………真後ろの顔は……

あはははははははははははははは！



実は、大笑いしている顔、爆笑顔なんです。

正式には「暴悪大笑面（ぼうあくだいしょうめん）と名付けられています。

「悪に出会ったら、それに染まらずに笑い飛ばせ。その笑いで悪をすくってあげよう。」と大笑いしているのです。

大切な人が道を外しそうになったとき、無理に励ましたり、とってつけたような言葉をかけたり、論理的に説明しようとするよりも、いっしょに笑い飛ばした方が効果的なこともあるはずですよ。

観音さまってインド生まれですが、インドのお経には、「暴悪大笑面」は書かれていませんし、次に伝わった中国にも残っていません。

断言できませんが……「暴悪大笑面」は「最後の奥の手は笑いだよ。」と考えた日本人が生み出したと考えられています。

そもそも、他の国で、聖人が爆笑しているシーンを見たことがありません。

お釈迦様が爆笑している仏像って見たことないし、イエス・キリストやモーゼや孔子が爆笑している絵画も見たことありません。

ひすいこたろう 「ニッポンのココロの教科書」（大和書房）より



日本のことわざや格言に「笑い」関することが多いことに納得がきましたね。

一緒に笑い合える相手がいることってことは……幸せなことなんですね。

「幸せだから笑うんじゃない。笑うから幸せになるんだ。」 さぁ県伊祭！みんなの笑顔でみんなを笑顔に！